

数々修習

vol.15

初秋号

平成三十年九月一日発行

- ・住職からの挨拶
- ・加藤神社との田植え
- ・西日本豪雨の被災地へのボランティア
- ・孟蘭盆会万燈供養のご報告

数々修習とは？

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟読していければと思っております。

発行元 本蔵院「数々修習」編集部

〒860-0811 熊本中央区本荘6-15-50 TEL096-364-4848 FAX 096-364-9570

「我々と衆生と皆ともに」

変革の中にこそ浄土は開け、苦難の時代だからこそ仏様が導く

ま

まだまだ異常な暑さが続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。私どもも七月八月のお盆参りを無事に終えることができ、ほっと一息というところ。去る八月十一日の「孟蘭盆会万燈供養」では沢山の方々とお勤めすることができました。昨年と同様、夜が更ける雰囲気とあいまって、幻想的で荘厳な会となりました。ご参拝いただいた方、ご協力いただいた方、ありがとうございました。加えて、加藤神社様と合同で行った田植え行事や、終活やお墓について考えるセミナー開催など精力的に活動しております。

さらには、先般起こりました西日本豪雨での甚大な被害に対し、当院としてもできる限りのご支援をさせていただいております。あらためてこの場を借り、この度の災害で失われた方々のご冥福をお祈り申し上げ、熊本とともに一日も早い復興を祈念しております。さて、時代は刻一刻と変化してまいります。特に現在は、千年に一度の大変革の時であるともいわれています。この変化の時代の中にあって、「我々僧侶、寺院の持つべき使命と

多くの祖師たちもその時代時代に応じ、思慮し、守り、変革し、歩みを進めてこられました。しかしいつの時代も人が求めて止まない浄土への思いは根源的に存在し、我々が人として存在する以上、その究極の関心は変わりません。廻向文の中に「我々と衆生と皆ともに」とありますように、変革の中にこそ浄土は開け、苦難の時代だからこそ仏様が働いてくれるのだと、そう確信しております。本号はいつもよりご報告やお知らせなどを多くご紹介いたします。ぜひ目を通していただき、当院への変わりぬく篤信、ご理解をお願い申し上げます。

平成三十年九月吉日
第二十世住職 藏本崇正 拜



第二十世住職 藏本崇正

NEWS 01

本蔵院からのお知らせ

醍醐寺様機関誌の表紙に さくら祈願の子どもたち

熊本地震以降本蔵院が取り組んできた活動のひとつ「さくら祈願」。この活動を、総本山醍醐寺様機関誌「神変」4・5月号の表紙、ならびに本文にご紹介いただきました。こんな光栄なことではなく、感謝の気持ちでいっぱい。



子どもたちとともに復興や祈りについて考え、感じる活動です。来年からも地道に続けてまいります

NEWS 02

秋のお彼岸と大祭へ どうぞお越しください

9月には、23日に先祖の御霊を弔うお彼岸、28日に不動護摩祈願の大祭が行われます。いずれの会の後にも、坊守手作りのお齋(昼食)もご用意いたします。どうぞお楽しみに。

9月の行事のお知らせ

- 9/23(日祝) 11時～ 「秋のお彼岸会法要」
本蔵院にて 今回も百万遍の念珠の会を同時開催。手作りのお齋(昼食)をお楽しみに。
- 9/28(金) 13時～ 「不動護摩祈願 秋の大祭」
本蔵院にて 自らの手で護摩木をお不動様の火に投じていただく内拝も行います。



NEWS 03

復興の鐘への刻名を！ 第2期募集、締切間際です

昨年4月に菩提樹苑に建立しました鐘樓堂(通称:復興の鐘)。復興への祈りを後世へと受け継ぐために、ご自身やご家族のお名前を刻名してみませんか。昨年から開始した第2期の募集締め切りが、いよいよ9月末と迫っております。詳しくは同封のチラシをご覧ください。ぜひこの機会にお申し込みを！



NEWS 04

TKUの人気番組 英太郎の「かたらんね」に 当院職員が出演しました

7月25日に放送されたテレビ熊本「かたらんね」に当院職員が登場しました。先日行われた、「終活セミナー」の告知での出演です。テレビの前で見ていると、普段とは違う職員の顔がおかしいやらどきどきするやら…。ご覧いただいた人には、緊張した様子が伝わったかと思えます。



このおかげ(?)か、8月29日の「終活セミナー」には多くの方においでいただきました。ありがとうございました！

汗まみれ、泥まみれの子どもたち 加藤神社様と合同で 神田への田植え体験

去る六月二十四日、加藤神社様の神田の田植え行事に参加しました。神田とは、神様に供える米を作る水田のこと。例年、加藤神社の子ども会が田植え・収穫体験を行っており、十年目の取り組みです。今年も加藤神社様から合同企画のご提案をいただきました。熊本地震が結びつかなかった不思議なご縁です。

当日、本蔵院からは檀信徒の子どもたち約十名が参加。神職の神事後、田植えを開始したものの、最初は泥を嫌がっていた子どもたち。泥遊びから始め、最後には汗まみれ泥まみれで緑の稲を田へ植え付けました。晴天と笑顔のなか、皆の手で無事田植えが完了！



本蔵院職員もがんばっています

泥のついた、いい顔です



住職のお話真剣に耳を傾けます

極楽浄土のような幽玄の世界

孟蘭盆会 万燈供養のご報告

8月11日「孟蘭盆会万燈供養」を無事厳修いたしました。風が気持ちよく感じる涼しい月夜の下、170人の方にお集まりいただきました。井原季子さんの鳳笙の奉納演奏も昨年同様に開催。今年からの試みとして、本蔵院の僧侶による仏教音楽「声明(しょうみょう)」と、井原さんの鳳笙の音色を同時に響かせる「コラボレーション」も。もともとの源流は「祈り」にある仏教と鳳笙。周りの空気や、風景に自然と溶け合い、菩提樹苑は不思議で幽玄的な極楽浄土のような世界へと変わりました。菩提樹苑に初めてご来苑いただいた参拝者には「こんないい霊園だとは思わなかった」というお言葉もいただきました。ご参拝、ご協力いただいた方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



子どもたちの手で、一つ一つ苗を植え付けます



宮司とともに神様に祈りを捧げた神事

西

日本を中心に全国的に大きな被害をもたらした「平成三十年七月豪雨(西日本豪雨)」。広島や岡山、愛媛など多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、尊い二百人の命が奪われた大変痛ましい大災害となりました。熊本地震の際、全国からいただいた温かく心強い支援に少しでも恩返しをしたいという思いから、本蔵院ではボランティア活動に取り組みしています。七月九日より七月十二日には当院の田尻宗良と宮村俊康がトラックに支援物資を積んで陸路で尾道にある醍醐派安楽寺へ。本堂の中にも土砂が流れ込む甚大な被害に驚きつつ、近隣住宅の土砂のかきだしを行いました。さらに七月十八日から七月十九日は、住職、霊園部長 木村が同じくトラックに水などの支援物資を載せ呉市の百華寺へ。撤去作業などに汗を流しました。



土砂と竹が押し寄せ、大きな被害を受けた寺院



トラックいっぱい水や支援物資を積み込みました

平成三十年七月豪雨の被災地へ 受けた恩を忘れず 支援活動を行っていきます

九月にも住職が支援に行く予定です。これからも本蔵院では、西日本豪雨被災地への支援を続けてまいります。



ユンボの免許がある宗良が泥をかきだしました